

新技術で盛り土崩壊防止

環境に優しい住宅の地盤改良技術「エコジオ工法」に取り組み松阪市飯高町宮前の土建業「尾鍋組」が、三重大と各高速道路会社などと共同で、同工法を活用した盛り土崩壊防止のための新技術を開発し特許を取得した。静岡県熱海市の土石流災害など豪雨や地震による盛り土の崩壊が社会問題化する中、災害防止対策として期待されている。

エコジオ工法は、セメントや鋼管のくいを使わず、砕石を柱状に地中に詰め込んで地盤を固める環境負荷の低い工法。尾鍋組によると、通常の盛り土崩壊対策は、細かい穴が開いた塩化ビニール製の水抜きパイプを斜面に横から打ち込み地下水を排出するが、7月に特許を取得した新技術では、長さ5メートルの砕石のくいを並べて打ち込んで壁状にし、最下部に水抜きパイプを差し込んで排水する。地下水が砕石の間を流れて最下部にたまるため、効率よく集水し排出できるという。

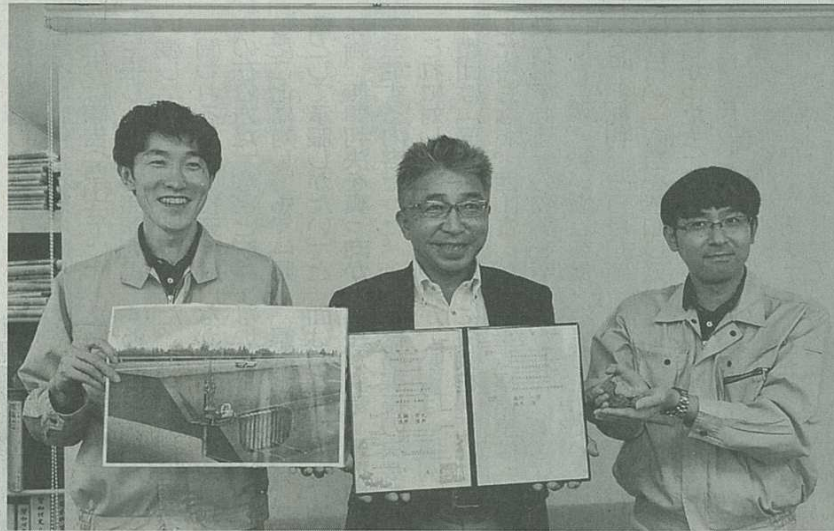
東日本大震災による液状化

MAINICHI

新 毎 日 新 聞

9月29日(水)
2021年(令和3年)

松阪の土建業者 三重大などと開発し特許取得



盛り土の崩壊防止の新技術で取得した特許証を手にする尾鍋哲也社長(中央)ら尾鍋組の関係者一松阪市役所で

現象で盛り土が崩れた宮城県尾鍋哲也社長(59)は「小型の自動車道「仙台北部道路」の約40区間で2013年に施工。地下水の水位を約2メートル下下すことができたという。現在、滋賀県内で土質の違いなどによる新技術の有効性の検証を続けている。」

【田中功一】

あるが、狭い場所でも施工できる。新技術を効果的な場所ですべて使ってもらい、少しでも災害防止に役立てたい」と話している。